

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のことば	蔵書
84	 藤沢周平の世界 07	朝日新聞社・2006	海鳴り:許されざる恋の果てに	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 老いへの不安と焦燥に駆られた男と、家庭で自分の居場所を見失った女。危険な逢瀬と知りながら、二人は許されざる愛の淵を彷徨う。不義密通という「タブー」のテーマに真正面から取り組んだ「海鳴り」。江戸時代の不義密通の実態や、主人公が営む紙問屋の流通形態にも光をあてながら、この名作を味わう。 爛熟した町人文化と心中事件の流行を背景に、不義密通の心裏を描いた「海鳴り」。老いへの不安、家庭不和、業界に渦巻く陰謀、世間のしがらみ——現代にも通じるテーマを絡ませながら展開していく物語を、エッセイスト・岸本葉子が女性ならではの視点で読み解く。	○
85	 藤沢周平の世界 08	朝日新聞社・2007	秘太刀馬の骨:秘剣の継承者を探せ!	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 「馬の骨」という秘太刀を耳にしたことがあるか?家老の小出帯刀に呼ばれた近習頭取の浅沼半十郎は、小出の甥・銀次郎を手助けしながら、「馬の骨」の継承者捜しに乗り出す。剣の基礎知識や武家の教育に触れながら、藤沢周平のミステリーを楽しむ。 秘剣・隠し剣といわれるものを、藤沢周平はいくつもに作品で書いてきた。本書「秘太刀馬の骨」もその一つであり、主人公が秘太刀遣い手探しを命じられることが物語の発端となる。はたして秘太刀探しの軌跡に、藤沢周平はどんな思いを込めたのか——作家・堀江敏幸が読み解く。	○
86	 藤沢周平の世界 09	朝日新聞社・2007	風の果て:執政に上りつめた男の孤独	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 部屋住みから主席家老へと異例の出世を果たした又左衛門のもとに、旧友からの果たし状が届いた。又左衛門は歳月を経て大きな隔たりができてしまったかつての道場仲間たちとの日々はを振り返る——。武家の次三男の生き方や江戸期の農政を通して人間の幸せとは何かを考える。 藤沢周平の小説を愛するあまり、「人生の蓄え」として読まずにとっておいたいくつかの作品。そのうちのひとつ、「風の果て」を読む日が来た。読後の筆者、作家のあさのあつこに、幸福感と喪失感が訪れる。	○
87	 藤沢周平の世界 10	朝日新聞社・2007	よろずや平四郎活人剣:もめごと仲裁つかまり候	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 江戸の裏店で「もめごと仲裁」の看板を掲げた神名平四郎。夫婦喧嘩に悪党の恐喝、道楽息子の後始末に町娘の恋煩い、さらには、鳥居耀蔵一味との対決まで絡んで来て、平四郎の獅子奮迅の活躍は止まらない。天保時代の世相を巧みに織り込んだ作品に、歴史と文学の両面からアプローチする。 仲裁屋として江戸の町を走りまわる神名平四郎。物語は、複数のエピソードがたくみに絡み合い、相互に共鳴しあって展開する。颯爽とした主人公が活躍する痛快劇でありながら、それにとどまらない魅力を持つ本作を、作家・杉本章子が読み解く。	○
88	 藤沢周平の世界 11	朝日新聞社・2007	麦屋町屋下がり:白刃きらめく「真屋の決闘」	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 武士が刀を抜くとき、命の遣り取りは必要となる。偶然から始まることもあれば、因縁の末、対峙することもある。武家の離婚事情など当時の生活実態に光をあてながら、藤沢周平円熟期の武家ものの秀作を楽しむ。 藤沢作品にはその基調に二つの光と闇がある。藤沢作品の長年の愛読者であるノンフィクション作家・後藤正治が表題作「麦屋町屋下がり」をもとに、藤沢文学を構成する要素を考察する。	○

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のことば	蔵書
89	 藤沢周平の世界 12	朝日新聞社・2007	獄医立花登手控シリーズ:青年獄医が見た人生の哀歓	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家による歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 春秋の檻/風雪の檻/愛憎の檻/人間の檻、叔父の家に居候の身をかこちつつ、柔術に励み、叔父の代診で牢医を務める青年立花登。牢獄で直面した囚人たちの人生の不条理に若い正義感を燃やす。舞台となる子伝馬町老屋敷の仕組みに触れながら、清冽さにあふれる作品を味わおう。 立花登という快男児には、藤沢周平の人柄がにじみ出ている。「正しさ」の尊さを知りながら、それを決して声高には語らない立花登に、作家・重松清は、藤沢周平作品に共通する人間観を見出す。	○
90	 藤沢周平の世界 13	朝日新聞社・2007	本所しぐれ町物語/橋ものがたり:出会いと別れの交差する街角	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家による歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 本所に創造した架空の町で起こる人間ドラマを描いた「本所しぐれ町物語」。男と女、情と想が行き来する「橋」をモチーフにした「橋ものがたり」。絶妙な構成と軽やかな筆致が光る二つの短篇集から、江戸の橋や町経済のしくみをひもときながらストーリー・テラー・藤沢周平の魅力に迫る。 江戸の人々を優しく、哀しく、人情味溢れた絶妙な筆で描く時代小説家、宇江佐真理。自身の作品で、「あやめ横丁」という架空の町を本所に創造した点でも、藤沢周平と重なることが多い。そんな宇江佐真理が、藤沢の珠玉の短篇集「本所しぐれ町物語」と「橋ものがたり」を読む。	○
91	 藤沢周平の世界 14	朝日新聞社・2007	一茶:生涯二万句、風狂の俳諧師	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家による歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 義母との確執から、なかば故郷を追われ江戸へ出た一茶は、食うや食わずの生活のなかで、俳諧師の道を歩みはじめる。二万句を作り、高名な俳諧師となった一茶の「俗」の部分を、藤沢周平は描き出した。その生涯や作品世界、時代背景を通して、一茶の世界を知る。一茶という俳人は、いくつかの著名な句のイメージによって語られてきた。小説家は、まずそのイメージかを捨て去り、人間としての一茶を見つめることからはじめた。藤沢周平の描き留めたかった一茶像とは――、詩人で作家の平出隆が読み解く。	○
92	 藤沢周平の世界 15	朝日新聞社・2007	天保悪党伝:闇に華咲く色と悪	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家による歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 ゆすり騙りの常習犯河内山宗俊、御家人崩れの博奕打ち片岡直次郎、金のためなら辻斬りも厭わぬ金子市之丞、堅気の商人と裏の顔を併せ持つ森田屋清蔵、情けに脆い子悪党くらやみの丑松、そして、吉原の人気花魁三千歳。講談や歌舞伎でおなじみの六人の物語が、天保の世で絡み合う。藤沢版「天保六歌撰」をその時代背景とともに楽しむ。 悪党という腐った奴らの話が、なぜかくも磁力を放つのか、藤沢周平の描く「寂しい悪、の物語」の魅力や、作家でミュージシャンの町田康が読み明かす。	○
93	 藤沢周平の世界 16	朝日新聞社・2007	市井もの短篇/暁のひかり・時雨みち:江戸の片隅・人情譚	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について:本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家による歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 過去を思い出し胸を痛める商家の旦那、つましく暮らす職人夫婦、職人稼業の兄を気遣う弟――。江戸を舞台にして人々が織りなす、時に温かく、時に過酷な「人情」の数々。江戸時代の町の暮らしぶりや風俗をふまえ、藤沢周平が描く珠玉の市井もの短篇を、表題作を中心に取り上げる。 掘割が走り、商家が連なり、長屋がひしめく江戸の町。そこで日々の暮らしをおくる人々を主人公にした藤沢周平の市井もの短篇、その描写の魅力や作家・山本一力が読み解く。	○

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のこぼれ	蔵書
94	 <p>藤沢周平の世界 17</p>	朝日新聞社・2007	武家もの短篇/暗殺の年輪・竹光始末・又蔵の火・玄鳥・花のあと: 下級武士の哀切	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。直木賞を受賞した「暗殺の年輪」を含む藤沢周平の武家もの短篇には、武家に生を受けた者が時に背負わなければならない悲哀が色濃く描かれている。仇討ちの実情などを明らかにしながら、武家の生き方に想いを馳せる。藤沢周平の初期の作品は、暗い色調のものが多かった。しかし、ある時を境にそれが「陽転」する。他に類を見ない作風の変化の背景を作家、そして評論家である関川夏央が紐解く。	○
95	 <p>藤沢周平の世界 18</p>	朝日新聞社・2007	藤沢版新剣客伝/決闘の辻: 武蔵、宗蔵が斬る!	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。宮本武蔵や柳生宗徳ら、実在した五人の剣客を取り上げた剣豪諸説。手に汗握る迫力ある切り合いの場面に加えて、藤沢周平ならではの人間模様も堪能できる。武蔵の思想や柳生新陰流の歴史背景を追いながら、「藤沢版剣客伝」を楽しもう。宮本武蔵や柳生宗徳など、五人の有名な剣客を取り上げたこの作品は、見せ場の決闘シーンに圧倒されるばかりではない。非情な剣豪の世界に、藤沢周平らしい「情」を持ち込んだ。深い味わいのある作品となっている。作家・小杉健治が読む。	○
96	 <p>藤沢周平の世界 19</p>	朝日新聞社・2007	闇の傀儡師: 謎の八獄党を追え	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。徳川将軍家世継ぎを巡って暗躍する老中田沼意次と、謎の八獄党。主人公鶴見源次郎は無限流の腕を見込まれ、老中松平右近将監に陰謀阻止への助勢を求められる。田沼意次と公儀隠密の「史実」にも迫りながら、この痛快伝奇小説「闇の傀儡師」を読む。藤沢周平ならではの人間模様も堪能できる。武蔵の思想や柳生新陰流の歴史背景を追いながら、「藤沢版剣客伝」を楽しもう。綿密な歴史考察を下敷きに、痛快な歴史エンターテインメントとして構築された「闇の傀儡師」。たんなる時代小説、歴史小説という枠を超えたこの大作を、歴史学者・色川大吉はどう読んだか。	○
97	 <p>藤沢周平の世界 20</p>	朝日新聞社・2007	霧の果て・神谷玄次郎捕物控: 怠け同心が暴く江戸の闇	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。江戸の定町廻り同心神谷玄次郎。ふだんは小料理屋に入り浸り、怠け放題の勤務ぶりなのだが、いざ事件が起きると、鋭い推理と剣の腕を発揮して、次々と事件を解決してゆく。定町廻りの職務の実際、町方の女性の暮らしぶりに触れながら、玄次郎の心憎い活躍を楽しむ。時代小説でありながら、時代小説で在りすぎない――。作家宇月原晴明が、藤沢作品が持つ普遍性を読み解きながら、現代の読者を捉えて放さない秘密の一端に迫る。	○
98	 <p>藤沢周平の世界 21</p>	朝日新聞社・2007	回天の門: 清川八郎、悲運の生涯	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。幕末、雪に閉ざされた東北から清川八郎は圧倒的な先見性をもって、倒幕という舞台に踊り上がり、先駆けとなった。藤沢周平は、「山師」と言われる清川八郎の内面に同郷人の眼差しをもって迫り、新たな像を作り上げた。八郎のバックボーンだった郷土と学問を知り、八郎の妻お蓮の生涯をたどる。草莽(そうもう)の可能性を信じ、自らも草莽として命を懸けた清川八郎。藤沢周平が解き明かした清川八郎の悲劇を、ノンフィクション作家・吉岡忍が読む。	○

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のことば	蔵書
99	 藤沢周平の世界 22	朝日新聞社・2007	義民が駆ける: 幕命を覆した農民一揆	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 大御所・徳川家斉と老中の策動で決まった三方国替え。庄内の農民は幕命をくつがえそうと直訴団を送り出す。雪の峠を越え、山道を伝い、江戸を目指す数百人の農民たち。当時の政治背景や史家の解説を通して読み解く。 歴史的な事件を題材にした「義民が駆ける」で、藤沢周平の筆は、老中から農民に至るまでの動きを巧みに追う。藤沢が描いた「歴史」と「政治」を、歴史学者の成田龍一が読み解く。	○
100	 藤沢周平の世界 27	朝日新聞社・2007	市塵: 稀代の政治家、新井白石	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 六代将軍徳川家宣の政治顧問として才を発揮した儒者新井白石。妥協を許さず我が道をゆく白石は多くの敵をつくり、「青鬼」と陰口をたたかれもした。そんな白石にはかつて味わった貧しさの記憶があった。藤沢周平が新井白石の内面に肉薄した力作を、白石の思想や時代を読み解きながら味わう。 新井白石という実用的な人物は、藤沢周平には不向きではないか。そんな筆者の予想は、例のごとくの「藤沢節」に見事に裏切られた。自伝「半生の記」をヒントに、編集工学者・松岡正剛が藤沢周平の創作を考える。	○
101	 藤沢周平の世界 23	朝日新聞社・2007	喜多川歌麿女絵草紙・日暮れ竹河岸: 浮世絵を彩る女たち	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 歌麿、広重、写楽、春信――。稀代の絵師たちが描いた浮世絵から、藤沢周平は熟達の筆で様々な人間模様を紡ぎだす。当時の出版事情も明らかにしつつ、藤沢周平と絵師たちの競演を楽しむ。藤沢周平が喜多川歌麿に託したものは、表現者としての覚悟だった。「喜多川歌麿女絵草紙」は「作家・藤沢周平」にひそむ心のひだを影のように映し出している。ノンフィクション作家・後藤正治が表現者の厳しさと悲しさを明らかにする。	○
102	 藤沢周平の世界 25	朝日新聞社・2007	密謀: 戦国の智将・直江兼統	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 上杉謙信の後継者景勝と、智将直江兼統。強い絆で結ばれた主従を軸に、秀吉から家康へと天下が移る激動の時代を写した。兼統の妻お船の内助ぶりなど史実を紐解きながら、このフィクションを交えた歴史小説を読む。 直江兼統と上杉景勝を中心に、激動の時代を生きた武将と忍びの者たちを鮮やかに描いた「密謀」。史実と虚構の融合という難題に挑んだこの意欲作を、作家・翻訳家の常盤新平が読む。	○
103	 藤沢周平の世界 28	朝日新聞社・2007	春秋山伏記: 山伏が村にやってきた	朝日ビジュアルシリーズ・週刊「藤沢周平の世界」について: 本シリーズは、藤沢周平が残した作品の内、代表的な作品を取り上げ、ビジュアルな30冊に編集したものです。藤沢周平の文章のハイライト部分を抄録しながら、専門家らによる歴史や時代背景の解説、再現イラスト、第一線の作家によるエッセイなどを、数多くの写真や図版とともに掲載します。 村一番のガキ大将だった鷲蔵が、山伏・大鷲坊となって村に帰ってきた。大鷲坊は、足の悪い村娘への祈禱、人に憑いた狐の退治、女房の浮気の後始末にと活躍する。江戸時代の農村や山伏の解説とともに、藤沢が描く庄内の四季と村の暮らしを楽しむ。 村にやってきた山伏の大鷲坊を中心に、農村で暮らす村人の姿をユーモラスに描いた「春秋山伏記」。子持ちの寡婦やもぐりの山伏、箕つくりの夫婦といった登場人物に込められた、藤沢周平の眼差しを、作家・立松和平が読み解く。	○

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のことば	蔵書
104	 <p>藤沢周平 志たかく情けあつく・</p>	新日本出版社・2007	新船海三郎	ひとり行く林間の小道は――作家の軌跡と「白き瓶 小説 長塚節」、国の本は民にあり――上杉鷹山と新井白石と、ふるさとは遠くに、近くに――「又蔵の火」から「臍曲がり新左」へ、転機は春の日差しに似て――市井の武家・青江又八郎、俗世の詩人・一茶、愛あり、友ありて人生――「海鳴り」「蟬ぐれ」「三屋清左衛門」の10作品を取り上げている。たとえば、「漆の実のみのる国」の上杉鷹山の篇で、頻りに起った農民一揆の年表を記し、その中で郡上一揆は五年もの長きにわたった。「郡上義民伝」として今に伝えられ、今も「郡上踊り」として、7月中から9月中の50日に渡って繰り広げられる日本で一番長い祭りである。藤沢周平作品を取り上げながら、周辺の記述・作家の心の内を押しはかり、著者の思いが伝わる「まさに著者の作品」に仕上がっていると感じた。	○
105	 <p>藤沢周平と江戸を歩く・</p>	光文社・2008	高橋敏夫・呉光生	藤沢周平作品を鑑賞する「物語を読む」と、作品の舞台を散歩する「物語を歩く」の二部構成から成っている。広重「名所江戸百景」に人の哀歓を読むには「飛鳥山」他3篇、絵師たちの江戸には「天保悪党伝」他3篇、探索のまなざしには「ささやく河」他3篇、出会いと別れと再会とには「海鳴り」他3篇、もめごとを求めてには「用心棒日月抄」他3篇、一瞬の攻防にいたるながい彷徨には「刺客 用心棒日月抄」他3篇を収録。6章からなる全24篇の作品の要約と、古地図で物語に浸りながら、今の地図を片手に物語をたどるために、手元に置きたい一冊である。	既読
106	 <p>無用の隠密/ 父・藤沢周平との暮らし 追憶展子</p>	文春文庫・2009	短篇	人に恐れられる隠密という存在も、巨大な組織からすれば卑小な歯車に過ぎない――命令権者に忘れられた男の悲哀を描く表題作他、歴史短篇「上意討」、悪女もの「佐賀屋喜七」など、作家デビュー前に書かれた15篇を収録。文庫化に際し、藤沢の浮世絵への並々ならぬ関心を知ることが出来る「浮世絵師」を追加した。	○
107	 <p>父・藤沢周平との暮らし/ 追憶展子</p>	文春文庫・2009		幼い日、会社勤めをしながら、男手ひとつで子育てに奮闘した父。夜なべで幼稚園の手提げ袋を縫い、運動会のために海苔巻を作ってくれた姿。育ての母を迎え、親子三人が川の字になってテレビを見ながら寝た夜。そして、娘の心に深く刻まれた「あいさつは基本」「自慢はしない」「普通が一番」という教え、やさしいけどカナムチョ(頑固)な父・藤沢周平の素顔を、愛娘が暖かい筆致で綴る。	○
108	 <p>藤沢周平を読む・</p>	新人物往来社・2010		「藤沢周平に逢う」から始まる、人柄そのままの書齋での写真、身近にあった品、万年筆・腕時計・虫眼鏡・眼鏡・落款・龍の鈴の写真、山形県鶴岡市に建つ記念館内に移築された書齋の写真は往年の創作に懸けた作家の余熱がそのまま息づいている。佐高信と宮部みゆきの対談、関川夏央・皆川博子・常盤新兵・佐江衆一・阿部達二の5人の作家による藤沢周平論と、藤田昌司・駒田信二・向井敏・水木楊・原田康子・岡庭昇・常盤新平・塩田丸男・江坂彰・皆川博子・出久根達郎ら11人の作家により18作品を取り上げ、「藤沢作品の読み方、味わい方」として解説している。	○
109	 <p>初つばめ/ 藤沢周平</p>	実業之日本社文庫・2011	短篇集	深川の料亭料理屋に勤める長屋住まいのなみは、両親を亡くしてから親代わりとなり面倒をみてきた弟の友吉が、嫁になる相手を連れて挨拶にやってきた。幸せな気持ちで出迎えたものの、高価そうな身なりの二人を見て心が乱れ――表題作をはじめ「松平定知の藤沢周平を読む」が選んだ、庶民の哀歌を描く10篇。物語の舞台を巡る散策マップ付。	○
110	 <p>帰省未刊行エッセイ集/ 藤沢周平</p>	文春文庫・2011	エッセイ集	普段めったに鳴らない家の電話が火を噴き、妻が駆けまわって対応に追われた直木賞受賞の夜。ただやむにやまれぬものがあって書く「作家」という人種について。ヒーロー不在の時代に小説の主人公を作る受難――没後十一年を経て編まれた書に、未刊行の八篇を新たに追加した。作家・藤沢周平の真髓に迫りうる最後のエッセイ集。	○

	作品の題名	発行	備考	あらすじ/作者のこぼ	蔵書
111	 藤沢周平とっておき十話・	大月書店・2011		藤沢周平夫人の小菅和子さんと長女の遠藤展子さんによる「夫として、父として」の序章から始まる。とっておきの十話と藤沢周平の親戚澤田勝雄による藤沢周平とのインタビューなど収録している。	○
112	 甘味辛味/	文春文庫・2012		作家になる前いくつかの業界紙で働き、中でも「日本加工食品新聞」では十年ものあいだ編集長を務めた藤沢周平。この新聞の常設コラム「甘味辛味」に書いた膨大な記事から、藤沢らしい正義感や反骨心、優しさとユーモアが感じられる七十篇を収録した。当時の同僚、仲間を取材した徳永文一氏による評伝も合わせたファン必読の一冊。	○
113	 わたしの藤沢周平/	NHK[わたしの藤沢周平]制作班・2012	短篇集	下級武士や江戸の町人など、普通の人たちの暮らしを温かい目線で描き、今なお多くの読者を魅了する作家・藤沢周平。没後10年にあたり放送されたテレビ番組で、各界で活躍する39人が語った「わたしの好きな藤沢周平作品」を、放送されなかった部分も含めて載録しました。巻末に文庫版オリジナル「全著作映像作品リスト」を収録。	○
114	 藤沢周平 遺された手帳・	文春文庫・2017		藤沢周平没後20年経ち、愛娘・遠藤展子が藤沢周平が残した手帳四冊をもとにまとめたもの。昭和38年、娘が生まれた年に始まる、文庫本より少し小さめの黒い表紙の手帳と、三冊の大学ノートで「金山町雑記・藤沢周平」と題名がつけられている。一冊目は昭和46年～昭和47年、二冊目は昭和48年～昭和50年4月10日、三冊目は昭和50年～となっていて、日記のように毎日書いていたのではなく、思い出した時に数日分書くスタイルだったと記している。昭和51年11月20日東久留米金山町から、練馬区大泉学園に引っ越し、その日記も終わっている。藤沢周平の日常が目に見える。	既読
115	 いまこそ読みたいた藤沢周平・	宝島社・2017		藤沢周平没後20年を経て、小説63作・エッセイ6作・映像55作の作品について取り上げている。物語の表紙の写真・物語の登場人物の相関図・藤沢作品に登場する武術流派をまとめたもの・物語に登場する場所の北斎が描く風景と現在の写真・本所しぐれ町切絵図等々が、藤沢作品を読むときにより深く理解する道しるべになるだろう。映像化された藤沢作品についての原作との関係性、劇場版では、見る人の興味をつなぐためか映画監督の意思か、別の物語を取り入れていることに対するコメントも興味深い。	既読
116	 藤沢周平のころ/	文春文庫・2018		「蝉しぐれ」「三屋清左衛門残日録」「橋ものがたり」――藤沢周平が遺した小説には、市井の人々のささやかな喜びや悲しみ、生きる上での「矜持」が描かれ、今なお読む者の心をとらえて離さない。没後20年を記念に編まれたムックに「オール読物」掲載の記事を追加し、再構成。藤沢作品の魅力に様々な角度から迫る、永久保存版の一冊！	○
117	 藤沢周平「人はどう生きるか」	悟空出版・2018	人生の大事な時にこそ読む	没後20年・生誕90年にあわせて、「周平独言」「小説の周辺」「藤沢周平 残された手紙」「藤沢周平のすべて」「藤沢周平を読む」「藤沢周平のころ」「わたしの藤沢周平」「藤沢周平のツボ」をもとに、藤沢周平の文庫本解説をまとめたもの。さらに江夏豊・竹下景子・篠田三郎・松平定知・湯川豊・杉田成道らのインタビューがあり、鶴岡市にある「藤沢周平記念館」での講演会や朗読の会などで馴染みのある方々です。	○